

2024年度 社会人入学試験（問題、出題意図、解答例）（総合社会学科）

【問題】

現代社会が抱える諸問題の中から1つを取り上げ、その原因はなんだと考えられるか、またどうすれば解決できるかについて、あなたの考えを述べよ（1000字以内）。

【出題意図】

普段から今日の多様な社会問題に対して関心を持ち、新聞やテレビのニュース・解説、ネット記事などに目を通して、自分なりの考えを持っているかどうかを見たいという意図で出題しました。その社会問題の「原因」や「解決策」は1つではありませんし、人によっても意見が異なるので、これだけが正解というものはありません。ただし、多くの人が合意していることについては、上記のメディアから探索可能でしょう。それらを要領良くまとめた上で、さらに自分自身の考えも付け加えることができれば、評価は高くなると思います。

【解答例】

日本の中山間地域さらには都市の住宅地においてクマの出没増加と被害拡大が大きな問題になっている。その最も大きな原因は、クマの生息環境と人との生活圏の接近・重複である。過疎化や高齢化に伴い、里山や農地の手入れが行き届かなくなり、放置された耕作放棄地や藪が増加した。これによりクマの通り道や隠れ場所が増え、生息域が人間の生活圏近くまで拡大している。人の気配が薄れたことで、クマが人里に近づくことへの警戒心も低下している。クマは主要な食料源であるブナやナラ類などのどんぐりが凶作となる年に、冬眠前の栄養補給のため、クマは山の奥から人里へ広範囲に餌を求めて移動する。人里には、放置された果樹（柿、栗など）、生ゴミ、残飯、農作物といった、クマにとって栄養価が高く効率の良い誘引物が多く存在し、クマが人里へ執着して出没を繰り返す原因となっている。また、一部地域では、クマの個体数が増加傾向にあると考えられており、人間を恐れないクマが増加し、市街地にも平然と出没するようになっている。

上記の問題の解決には、クマと人の生活圏を分ける「すみ分け」と、誘引物の徹底的な管理を両輪で進める必要がある。第1に、集落周辺の藪の刈り払いを行い、クマの隠れ場所や移動ルートとなる場所の見通しを良くすることである。残飯、生ゴミ、廃棄農作物、果実（柿・栗など）を放置せず、クマが食べ物にありつけないよう徹底的に管理・除去する。農地や果樹園、養蜂箱の周囲には電気柵を設置し、クマを寄せ付けない物理的な防除を徹底する。第2に、クマの排除と個体数管理である。人の生活圏に出没したクマは、追い払い（音や光などによる威嚇）を徹底する。追い払いが困難で危険性が高い個体や、人身被害を起こした個体については、捕獲・駆除を状況に応じて行う。広域的にクマの生息状況や果実の豊凶を予測し、大量出没が予想される年には早期に警戒を呼びかけ、対策を強化する。第3に、住民や旅行者など個人レベルでの対策も必要である。山や藪の近くを歩く際は、鈴やラジオなど音の出るものを携帯し、人の存在をクマに知らせる。クマとの遭遇情報を共有し、危険な場所には立ち入らない。万が一遭遇した際は、クマを刺激しないよう冷静に行動する。これらの対策を地域住民、自治体、猟友会などが連携して継続的に実施することで、人身被害のリスクを減らすことが可能になるのではないだろうか。（992字）

2024年度 編入学試験（試験問題、出題意図、解答例）（総合社会学科）

【問題】

世の中に存在するさまざまな不平等の中から、一つを例として挙げなさい。それは望ましいものか、望ましくないものか。望ましくない場合、どうすれば解決することができると考えられるか。あなたの考えを述べよ（1000字以内）。

【出題意図】

社会問題への関心と理解を確認する。社会の構造的な問題や格差の実態に目を向け、解決を目指す姿勢を問う。問題提起、原因の分析、解決策の提示を論理的に展開し、わかりやすく伝える力を試す。

【解答例】

私たちの社会において、子どもたちが学びの場で平等なスタートを切れない問題が依然として深刻だ。経済的に余裕のある家庭では塾や家庭教師を利用し、教材や学習環境を整えられる。しかし、生活費を切り詰める家庭では基本的な参考書の購入すら難しく、家庭学習の習慣が定着しにくい状況だ。こうした格差は進学や就職の機会に影響を及ぼし、生涯所得や社会的地位へと連鎖するおそれがある。

学校現場でも格差は広がっている。私立学校は最新の教材や少人数授業、特色ある課外活動を実施しやすい反面、学費が高額で誰もが通えるわけではない。公立学校は通学区域の制約があるものの学費負担が抑えられる半面、地域予算や人口動態に左右されて教員数や施設整備にばらつきが生じやすく、教育環境の安定確保に課題がある。

この状況を根本的に解消するには、公的支援の強化が不可欠である。まず、給付型奨学金を大幅に拡充し、ウェブ申請や審査基準も簡素化する必要がある。次に、自治体が主体となる放課後教室や長期休暇中の補習講座を無償化し、経済的理由で塾に通えない子どもたちに安心して学べる場を保障すべきである。

さらに、公立校の教育基盤を支える設備投資と教員配置の見直しも急務である。学校施設やICT環境の整備を強化し、オンライン学習のハードルを下げるのが重要だ。教員数を増やし少人数学級を推進すれば、一人ひとりに目が行き届く丁寧な指導が可能となり、学習意欲も向上すると考えられる。

教育への公的投資は一時的な支援にとどまらず、国の持続的な発展を支える基盤となることを理解すべきである。教育は未来への投資であり、子どもたちの可能性を広げる最良の手段である。政府が財政を投入し、中央と地方が連携して制度を整備すれば、一過性ではない持続的な学びの基盤を築くことができる。すべての子どもに平等な出発点を保障し、多様な人材が活躍する社会を実現するために、私たちも責任を共有し行動を起こす必要がある。（810字）

2025年度 社会人編入学試験（試験問題、出題意図、解答例）（総合社会学科）

【問題】

現代の日本における雇用や労働の問題に置いて、特にあなたが関心を持つ問題を一つ取り上げ、その概要について説明してください。また、どうすれば解決できるかについて、あなたの考えを述べてください。字数は1000字程度とします。

【出題意図】

本問題は、現代社会の重要な課題である「雇用・労働問題」に対する受験者自身の関心と理解の深さを測ることを目的としている。単なる知識の有無ではなく、自らが問題を発見し、その背景を理解し、自分の意見を論理的に説明できる力が問われる。

【解答例】

現代の日本における雇用や労働の問題の中で、私が特に関心を持つのは「非正規雇用の増加」と、それにとまなう生活の不安定さである。現在、日本では派遣社員やアルバイト、契約社員として働く人が増加している。正社員と比較すると賃金が低く、雇用契約の期間も限られているため、安定した生活を送ることが難しい人が少なくない。特に若者や女性、子育て世代にこの傾向が集中していると考えられる。非正規雇用の増加には、企業の人件費削減や景気の変動への柔軟な対応といった企業側の事情がある。また、グローバル化やIT化の進展により働き方が多様化し、必ずしも全員が正社員として働くことを前提としなくなったことも影響している。しかし、こうした構造変化の結果、多くの非正規労働者は十分な社会保障を受けられず、将来に対して大きな不安を抱えている。

この問題を解決するためには、いくつかの方向からの取り組みが必要である。第一に、企業による非正規雇用者の処遇改善が求められる。同じ業務を行っている場合には、正社員と同等の賃金や福利厚生を保障する「同一労働同一賃金」の考え方をより徹底する必要がある。制度としては整いつつあるが、現場レベルでの実施はまだ十分ではない。

第二に、国による社会保障制度の強化も不可欠である。非正規雇用者も安心して働き続けられるよう、年金や医療、失業手当などの制度を充実させる必要がある。雇用形態にかかわらず将来の生活に不安を抱かずにすむような制度的支えが求められる。

第三に、働く側の意識と働き方の多様性への理解を社会全体で深める必要がある。非正規雇用を自ら選択する人もいれば、望まずにその立場に置かれる人もいる。後者の人々がより安定した職を得るためには、教育や職業訓練によるスキルアップ支援が有効である。正社員への転換機会やキャリア形成の道を広げる政策も重要である。

非正規雇用の増加は個人の問題ではなく、社会全体の構造的な課題である。企業、国家、そして働く人々の三者がそれぞれの役割を果たすことで、より公平で安心して働ける社会に近づくと考える。さらに、人口減少が進む日本においては、一人ひとりが力を発揮できる環境づくりが不可欠であり、その基盤となる雇用の安定は、社会の持続性にとっても極めて重要な課題である。(943字)